

令和4年度第1回
港区総合教育会議 会議録

令和4年12月12日(月)

港 区

令和4年度第1回港区総合教育会議

日 時 令和4年12月12日（月）開会 午前10時 閉会 午前11時
場 所 港区役所4階庁議室
出席者

区 長	武 井 雅 昭
教育委員会教育長	浦 田 幹 男
同 教育長職務代理者	田 谷 克 裕
同 委 員	中 村 博
同 委 員	寺 原 真希子
同 委 員	山 内 慶 太

出席区職員

副区長	青 木 康 平
副区長	野 澤 靖 弘
高輪地区総合支所協働推進課長	中 村 美 生
教育委員会事務局教育推進部教育長室長	佐 藤 博 史
教育委員会事務局学校教育部教育指導担当課長	篠 崎 玲 子
同 統括指導主事	下 橋 良 平

事務局

総務部長	新 宮 弘 章
同 総務課長	若 杉 健 次

次 第

- 1 開 会
- 2 区長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 議 題
 - (1) 「持続可能な社会の創り手となる港区で育つ子どもたちへ」について
 - ① SDGsを踏まえた教育について
 - ② 地域とのつながりについて
- 5 その他
- 6 閉 会

(午前10時開会)

1 開 会

○区長

ただいまから、令和4年度第1回港区総合教育会議を開会いたします。どうぞよろしく申し上げます。

教育委員会の皆様には、ご多用のところご出席いただき、ありがとうございます。

今年度も引き続き、総合教育会議を開会させていただくわけですが、私と教育長、教育委員の皆様とで、港区の子どもたちの教育環境の向上のために協議、調整してまいりたいと思います。よろしく申し上げます。

なお、この会議につきましては、公開を原則としておりますので、あらかじめご了承ください。

本日は、報道機関から取材及び写真撮影の申込みはありませんでした。

2 区長挨拶

○区長

開会に当たりまして一言ご挨拶をさせていただきます。

教育委員の皆様には日々、港区教育行政に大変ご尽力いただいております。ありがとうございます。

本日の総合教育会議では、「持続可能な社会の創り手となる港区で育つ子どもたちへ」をテーマとして協議したいと考えております。

現在、SDGsが掲げる誰一人取り残さない社会の実現に向けて、国や地方自治体、企業、教育研究機関、NPOなどの、様々な主体により、この地球で、皆が幸せに暮らし続けていくために、積極的な取組が展開されております。

教育委員会でも、昨年12月に「環境教育の充実に向けた取組強化」をまとめ、自分の生活に身近なところで、環境に配慮することの大切さを学ぶ教育に取り組まれています。

また、昨年度の会議では、コロナ禍で減少してしまった子ども同士や親同士、地域活動とのつながりについて、教育委員の皆様から貴重なご意見をいただきました。

最近は、お祭りなどで地域コミュニティ活動が復活して、区の行事でも10月にはみなと区民まつり、これは4年ぶりとなりました。先月はMINATOシティハーフマラソン。これは3年ぶりとなりましたが、開催することができました。

まちなのにぎわいが戻りつつあり、こうした行事にも多くの方にご参加をいただきまして、たくさんの笑顔が会場内にあふれ、皆さんが待ちわびていたことを私も肌で感じております。

子どもたちをとりまく環境も同様で、コロナ禍と言われる中、学校行事や地域行事について、残念ながら中止になったり、また感染拡大前のように行えず、感染防止対策を講じた上で実施したりと、楽しみにしていた子どもたちには悲しい思いをさせることもありました。

現在は、感染者数を見ながら感染対策を講じた上で、学校行事や地域の行事が実

施され、まちには子どもたちの弾む声が戻ってきております。

本日は、明日の港区を支える子どもたちが、一人ひとり大切にされ多様性を認め合い、心豊かに育むよう皆さんと意見交換し、SDGsを踏まえた教育と地域とのつながりについて検討したいと考えております。

限られた時間ではありますが、どうぞよろしく願いいたします。

それでは次に、浦田教育長からご挨拶をお願いします。

3 教育長挨拶

○教育長

武井区長におかれましては、日頃から港区の教育行政に多大なご支援をいただき、ありがとうございます。

長引くコロナ禍がまだまだ続いておりますけれども、今年度はこれまでの知見を生かし、運動会、移動教室、修学旅行、そして本来であれば、オーストラリアでしたが、代替として沖縄イングリッシュキャンプなどの宿泊行事を含む、ほぼ全ての行事を実施しております。

ただ一方で、これまでの2年間、様々な行事が開催出来なかったということがあり、子どもたちの体力低下等が懸念されているところです。

令和5年度は区長にご配慮いただき、全幼稚園・小学校にボルダリングボードが設置されます。また、連合運動会も3年ぶりに駒場で実施されました。子どもたちから、「是非国立競技場で走ってみたい！」という声が挙がり、来年3月に国立競技場で子どもたち及び大人も含めた大きなイベントを開催できるということで、我々は、今、一生懸命、子どもたちへのPRも含めて開催に向けて計画しているところでございます。

昨日は、3年ぶりに青山地区で「第43回青山みんなで走ろう会」があり、子どもたち、親御さん、そして地域の方に集まっていただきました。子どもたちと交わる機会がなかなかないというコロナ禍中でたくさんの方にご参加いただきました。

それは、春、そして秋に行われた運動会でも、「これまでなかなか子どもたちの元気な姿を見る場所がなかった」という声をいただいていたのですが、今年度になって、行事が復活し、「子どもたちの元気な姿を見ると自分たちも元気になる」ということで、本日のテーマでもあります、地域との関係というところでは、やはり子どもたちにとっても良い経験になりますし、地域の皆さんにとっても、子どもたちとの交流を本当に楽しみにしていることを改めて感じたところでございます。

今、教育委員会では、教育の質を更に高めていくということで、区長部局のご配慮あるいはご支援をいただきながら、検討を進めているところでございます。

本日のこの懇談を有意義なものにして、更にまた、教育の中でしっかりと区長のご意見ご質問を踏まえ、作り上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○区長

ありがとうございました。

なお、本日出席しております説明員ですが、お手元に配りました総合教育会議席次表のとおりでございます。よろしく願いいたします。

4 議 題

(1) 「持続可能な社会の創り手となる港区で育つ子どもたちへ」

○区長

それでは早速ですが、本日は「持続可能な社会の創り手となる港区で育つ子どもたちへ」をテーマにして、SDGsを踏まえた教育と地域とのつながりについて意見交換をしたいと思います。

では、意見交換に先立ちまして、説明委員から、資料の説明をお願いいたします。

○総務課長

説明員を代表いたしまして、私から本日の資料のご説明させていただきます。

お手元の資料1から3までをご覧ください。こちらが一つ目のテーマである、「SDGsを踏まえた教育について」の関連資料です。

まず、資料1につきましては、教育委員会では、港区学校教育推進計画で掲げられた施策に基づき、重点事業として、健康な身体づくり、環境教育の充実、国際理解教育の充実、いじめ防止推進事業の充実の4つの柱を掲げられ、取り組まれています。

その中の1つである、環境教育の充実のうち、SDGsの視点からも、持続可能な社会の創り手となる子どもたちにとって重要であるということから、ビオトープの活用、また学校版環境マネジメントシステムである、みなと子どもエコアクション事業、さらには、太陽光発電設備を活用した学習に取り組み、子どもたちにとって身近である学校を有効的に活用し、環境学習に取り組んでいることをお示ししております。

資料2でございます。こちらはこの4つの柱のうち、環境教育の充実に向けた取組強化について記した資料でございます。

また、最近のトピックスとしまして、資料3でございますけれども、教育施設の設置については全国で初の取組となる、舗装型太陽光パネルをお台場学園と青山小学校に設置して、今月から実証実験の開始をしているという紹介です。

省エネはもちろんですが、発電量をリアルタイムで可視化し、子どもたちの環境学習を実施するなど、エネルギー危機を自分のこととして捉え、学ぶ機会の創出につなげているというものでございます。

続きまして、資料4からは二つ目のテーマであります「地域とのつながりについて」の関連資料です。

昨年度の総合教育会議でも、教育委員の皆様から、コロナ禍において失われたつながりの回復についてのご意見を頂戴しております。

コロナ禍において、子どもや保護者を取り巻く環境が一変しております。親子だけでなく学校や地域を含む活動や取組についてということで、資料4の令和4年度の港区青少年健全育成活動方針のパンフレットをご紹介します。

詳細は省略いたしますが、活動方針の中には、例えば、自治体の連携による自然

体験交流事業の一例として、赤坂・青山地域と岐阜県郡上市、また、麻布地区と山形県舟形町の交流事業など、こうした事業が3年ぶりに実施できたというような変化がございます。

今年度は、無事に開催できた地域行事も多くありまして、自然や環境に触れ、歴史などを学び、人と人との関わりを深める機会の充実に一層取り組まれているところです。

なお、資料5でございますが、こちらは各地区における、コロナ禍前、コロナ禍中、それから現在における、子どもや学校と地域との関わり状況について、個別にまとめさせていただいたものです。

赤で、アンダーラインを引いておりますのが、コロナ禍で影響を受けて中止せざるを得なかった事業です。これが現在、徐々に再開していることをご覧いただければと思います。

最後になりますが、資料6、7につきましては、部活動の地域移行について国がまとめた提言の概要でございます。

資料6は運動部、資料7は文化部でございます。

それぞれともに休日の活動から段階的に地域に移行していき、地域におけるスポーツまた文化芸術に親しむ機会の確保に取り組まれて、地域のスポーツ団体や文化芸術団体等と学校との連携共同の推進を改革していくねらいでございます。

地域で活躍する専門性や資質を有する指導者の皆様から学ぶことで地域と学校が一丸となって、子どもたちに様々な体験の機会を確保することを目指しています。

簡単ではございますが、事務局から資料の説明は以上です。

○区長

幅広い分野に渡る資料でございますけれども、昨年度の総合教育会議の議論を受けまして、地域と子どもたちのコミュニケーションについて、地域との交流あるいは夏休みの自治体間交流事業など、3年ぶりに実施できた事業もございました。

また、タブレット使用に関しての課題が発生しつつあるということで、教育委員会では実態に応じた情報モラル教育を実施するために、児童・生徒、また保護者へアンケートを実施し、今後の情報モラル教育に活用すると伺っております。

今年度もこの会議での内容をこれからの区政に反映していきたいと思っております。では、意見交換を進めて参りたいと思います。

先程、説明がありました内容につきましてご意見を頂戴したいと思います。

また、内容について追加の説明が必要なものがありましたら、説明員の方から説明をしてもらうことにいたします。

特に順番は設けてございません。委員の皆様からご意見ございましたら、是非よろしくお願ひいたします。

○田谷教育長職務代理者

港区の場合、このSDGsの問題については、例えば、太陽光発電の件は以前から、学校が新設あるいは改築される度に設備を入れていただいていると私は認識しております。

最初に認識したのは高輪台小学校の改築工事でしょうか。屋上部分に太陽光パネ

ルを入れていただきました。我々が見学へ行った時は、屋上に太陽光パネルを設置すると紹介されたのですが、屋上に設置しても、屋上は立入禁止ですから、子どもたちだけでは見ることができない場所です。

そのことを課題として捉えた当時の高輪台小学校の場合は、日々登校してくる子どもたちや、職員、あるいは地域の方たちに、現在の発電量が分かるよう、1階にモニターを設置しました。それ以降、同様の改築等をしているほとんどの学校にモニターが設置されているのかなと思います。

また、ビオトープも多くの学校に設置いただいておりますが、ただこちら屋上への設置が多いため、なかなか子どもたちが見ることができない。

最近聞いた話では、白金の丘学園の1階にビオトープを作る予定があるというような話を耳にし、とても嬉しい気持ちになっております。

それから、健康な体づくりということと地域とのつながりということは、非常に密接な関係があると思っています。

先程、教育長からもお話がありましたように、運動会や体育祭等の行事が、今年度ぐらいから復活してきました。

少し前は、感染防止対策や安全対策を十分に講じた上で、非常に小さい規模や地域の希望者だけということで、ウォークラリーなどを行ってございました。屋外で非常にやりやすいと好評でした。体力づくりという部分では、今後も、地域と連携してこういう行事はこれからも行われていくのかなと思います。

昨日、教育長は「青山みんなで走ろう会」に出られたそうですが、地域行事がどんどん復活しているのは、良いことだと思っております。

公立の学校の場合、太陽光発電やビオトープの設置が叶いやすい環境下にあると思います。子どもたちへのアプローチもあると思いますので、今後も続けていただきたいと思っております。

○区長

ありがとうございました。

環境学習についても、今、キーワードとして話されていた、子どもたちに「見える」、「実感してもらう」ということが、確かに大事だと思います。

事務局から説明があった新しい試みの舗装型太陽光パネルですね。ねらいも共通することがあると思いますが、教育長いかがでしょうか。

○教育長

はい。今電力の話題が出ている中で、今まではどちらかというと、省エネの部分に力を入れてきました。今回は、創エネ・電力を作る方ということで、実際に新しい技術がどんどん進んできております。普通の道路に、舗装型太陽光パネルを設置することによって、電力が作られているという実感ができるということと、様々な技術の進歩を体感できるということが、今回の設置の目的でございます。

環境教育の資料説明もありましたけれども、教育委員会としては、4つの重点項目の中に取り入れているところで、子どもの頃から当たり前に行っていくことによって、大人になってからしっかりと普通のことができる。また、学校で学んだことを子どもが覚え、家庭でその話題になり、家庭の中でどんどん広がっていくというところで言えば、非常に良い取組だと我々も自負しております。

それぞれの学校が学校の特色に合わせて、しっかりとカリキュラムの中に取り組んでいるという状況でございます。

○区長

港区の各学校はどうしても敷地が限られていますので、地上部が貴重となってまいります。建物の屋上は立体利用になっているので、子どもたちがすぐ目にするのがなかなか難しくなっていることは確かかもしれません。

ビオトープにしても、例えば校庭の一角にでもあれば子どもたちが毎日目にすることができるのでしようけれども、そういう面ではやはりその土地の制約というものを、どのように解消していくかということも一つの課題になっているかと思えます。

山内委員お願いいたします。

○山内委員

今のことに関係して、まずその前に前提としてですが、やはり持続可能な社会の創り手をどうつくるかという時に、自立的な創り手をどうつくるかということが重要だと思います。つまり、自分たちで持続可能な社会のために課題を見出して主体的に取り組めるような子どもをどう育てるかということです。そういう意味では、SDGs教育で一番大事なことは、今、あのアイコンが水戸黄門の印籠のようになっている、だからあれをただ当てはめて使えばいいというわけではなく、自分たちで新たなアイコンを作るぐらいの気持ちで、主体性を持たせるようにしていくということが、まず一つ大事だと考えています。あのアイコンを水戸黄門の印籠にしないこと。どうすればそういう教育ができるのかが、学校では工夫のしどころだと思っています。

その上で、この環境の問題ですが、学校の敷地が少ない中で、実は自然に親しむ環境を作るということは工夫の仕方でもできることなのです。

例えば学校の中も、様々な植栽があります。それから街の児童遊園の植栽にしても、例えばそこに蝶の幼虫が好きな食草になる木を植えるとか、あるいは蝶が蜜を吸うような花を植えるなど、それぞれの種類に応じて組み合わせをうまく入れていけばそれだけで、蝶はいくらでも集まってきます。

実は、そのような小さな工夫を重ねることで、子どもが自然を身近に感じる機会はいくらでも作れる。

さらに言えば、学校の図書室や街や地域の図書館のつながりを生かし、見つけた蝶についてどのような蝶か、この幼虫は何かということがすぐに探せるような、そのような学校の蔵書づくりや見せ方をすることで、ビオトープや植栽、そこで見つけた生き物と、図書室、図書館をつないでいくという仕掛けづくりです。

そういう点で言えば、せっかく港区は科学館もできたわけですから、施設のサポートを受けながら、そのような空間のつながりをビオトープ以外にも広げていき、それと、図書室や図書館をつないでいくことができると、かなり面白い展開ができるのではないかなと思っています。

○区長

ありがとうございます。

まさに地域とのつながりも含めて、学校の中だけで完結できるものもあれば、それが難しいあるいは、むしろそうしたことを意識せずに、もっと広く地域を教育のフィールドとして活用していくということのお話かと思えます。

港区は、決して多くはないですけども、緑に恵まれており、千代田区に次いで、緑被率は2番目に多い区で、緑化には力を入れております。また水辺環境もありますので、そうした環境を生かしていくっていうことは、港区ならではの環境教育の進め方になってくるヒントがありますね。

今、学校現場で地域に出て、環境教育などを行っているような実践というのはあるのでしょうか。

○教育長

皆さんもご承知だと思いますが、お台場では、目の前に海があり、その海を泳げる海にということで、地域全体となって取り組んでおり、海苔の養殖や実際に海に出て活動している部活動もあります。ヨット部では、救助するボートを太陽光で充電する取組をしています。環境学習というよりは、日常生活の中で実践しております。

海洋大学と小学校がコラボし、運河をどのようにして綺麗にしていこうかということで地域の特徴に合わせた環境学習をしています。また地域の皆さんからも学校との関係をぜひ築いていきたいという声があり、青山地域では企業あるいは知見者のご協力をいただいております。学校の環境学習は、学校の中だけではなくて地域とのつながりがあるという状況です。

○区長

港区にも多くの企業があり環境活動に取り組んでいらっしゃいます。そうした企業あるいは団体が、地域の皆さんとつながりを持つことで、子どもたちにとっても非常に良い、学校の中だけでは学べないことではないでしょうか。

また、実際に自分で体験して理解することが子どもたちの飛躍につながりますよね。そのための条件整備として、今例えばこういうところはちょっとネックになっているのではないかとか、もう一押し、この工夫があるとやりやすいとか、あるいは、学校の子どもの学びに、こういう用意があるのだけれど、さてどのようにそれを使ってもらえるだろうかというような、逆の方向からご意見をもらうことなどもあるかと思えますけれども、いかがでしょうか。双方に交流というか協力、連携を活発にするための、もう一味加えるとすれば、どのようなことになりましかね。

○山内委員

先程、私が申し上げたことだけについて言っても、学校の中で、どのような木を植えるかということは、先生方が熱心にできると思えます。

でも、街の公園や児童遊園、あるいは施設周辺の植木というのは、また別の部署の管轄になるだろうと思いますが、単に植えるのではなく、例えば、もっと豊かに様々な種類の蝶が来やすいような木を植えるにはどうするかと。何かそういう工夫を凝らすだけで、木の選び方が全く変わってくるわけですね。部署を超えてどうできるようにするかというのは重要だと思います。

○区長

そうですね。港区では開発工事が行われておりますけども、区でも、かなり厳しい緑化の基準を設け、協力をお願いしています。

以前は、緑の面積を満たす緑地にする緑化でしたが、最近は、それが地域、その地にあった植生というのでしょうか、いろんな木を取り混ぜながら、本来その地にあったであろう緑を復活させるような工夫を凝らした植生を実現してもらう開発工事の事例が増えてきました。

今、山内委員がおっしゃったように、蝶が来る鳥が来る、その中でこの生態系が循環していくような環境を整えられるという効果が出ているようですけれども、緑化といっても何かの目的をもって、そこで、実現させあるいは特色を持った緑化、そうしたものがやはり効果的にはなりませんでしょうか。

この都会の中で、そのような自然の営みを本当に身近に感じることができる現場となりうるというご意見ですね。それぞれ特色がある児童遊園になるかもしれないですね。

おのずと、子どもたちも自分の街にそのような特色のある緑があると興味も湧いてくるものだと思います。ありがとうございます。いかがでしょうか。他にありませんでしょうか。

○寺原委員

子ども同士と親同士のつながりの希薄化の件についてです。

昨年の会議の際に、まさしくそのことを保護者の立場から申し上げた記憶がありますが、この1年で改善したことを実感しています。

1年前には子ども同士が遊ぶということ自体、子ども自身があまり慣れていないというか、特に低学年の頃からコロナ禍に入った子どもたちは、お膳立てをしてあげないと、遊ぶということができないという雰囲気がありました。

最近では、子どもたち同士で普通に約束をして、一度家に帰ってランドセル置いて、公園に遊びに行くという、昔は当たり前だったことが戻ってきているなあと感じており、親として安心しています。

P T Aの行事についても同様で、例えば区から補助されている自然体験教室も、この数年お休みがちだったのですが、今年は親子や団体で出かけることができました。

もし、一点気になる点を申し上げるとすると、子どもたちがとても真面目なので、新型コロナウイルス感染症の感染についても非常に気にしている子どもたちが多く、先日の子どもサミットのスローガンにも「マスクを着用しましょう」という内容を入れようとしていたほどです。それはとても素晴らしいことだと思うのですが、大人と比べても子どもたちはもう十分に対策が身についているように見えます。

マスクの着用は、表情が見えにくいなどのデメリットも増えてきており、国からは「外ではマスクを外してもOK」という呼びかけも始まりました。学校でもすでにそのようなことも伝えてくださっているとは思いますが、バランスが難しいところもあるとは思いますが、子どもたちが過度に気にしなくてよいようにできたらと思います。

もう一点は、SDGsの関係で、先程、山内委員もおっしゃっていた、その主体性というところとかかわるかと思いますが、太陽光やビオトープなどの環境という観点は本当に素晴らしいと思いますが、SDGsといった場合、人権の観点もとても重要です。

港区は、いじめ対応も含めて、人権教育に力を入れている方だと感じてはいますが、今後、SDGsという場合に、ぜひ人権教育という柱も一緒に打ち出していただくとよいと思います。

いじめ対応や教職員研修などの一つひとつの項目の中で、人権教育については当たり前のようになってらっしゃると思いますが、それをSDGsの中で改めて一つの柱として位置付け、体系的に見せるということは、子どもたちや先生方にとっても、意味のあることかと思えます。

○区長

ありがとうございます。

今のご指摘はとても大事なことで、SDGsは日本語だと持続可能と略されてしまい、サステナブルや資源問題とか常に地球環境にフォーカスされがちです。

今、寺原委員がおっしゃったとおり、人権や健康でありますとか、あらゆる分野にまたがっているのも、それは確かに大事なことだと思います。

子どもたちにとっても、自分のアイコンを作れるような、「SDGsってそもそも何なのだろうか。」というところの理解から進めることが、その次のゴールに向かう道筋を自分たちで考える基になると思えますね。

区としても、そこはいつも基本に置きながら進めていく必要があると思います。

これもやはり教育の現場と共有しながら進めていきたいと思えます。

また、マスクの話はどうやって進めていこうかと皆さん悩んでいるところだと思います。地域での活動なども、だんだんとまた元通りになり、感染予防対策もしっかりやるところはやり、でもできる活動というのは、もうこれまでの経験や体験からいっても、それはできる分野、あるいはやり方というのも少しずつ分かってきているようなところがあります。

その兼ね合いの中で、子どもたちにとってもマスクがもう服と一緒になんでしょう。付けていることが当たり前になっています。逆に、外すことに抵抗が生まれているような状況だとすれば、外してもいいということ、どう働きかけていけばいいか、それは大きな問題ですよ。

それはなかなか難しく、何か感じることはありますか。これは、感染がある程度落ち着いてきているという見通しが立っているということが前提ですけれども、委員の皆様の中で、どうすれば脱マスク社会に向かっていけると思えますか。

○田谷教育長職務代理人

区長のおっしゃるとおりで、子どもたちに話を聞いてみると、マスクもウェアの一部のように思っていて、マスクを外すのが恥ずかしいと言います。

先生方もマスクをしておられるので、先生の素顔がわからないとかね。表情が読みにくいということがあられるようです。

○区長

確かに、マスクを外すと認識できないというか。誰だかすぐには分からないということも起きていると聞きます。

マスクを外すということは、子どもたちにとっても大事なことですし、地域とのつながりや人とのつながりをこれからどうやって元に戻していこうかというときには、避けては通れないことですし、段階的に考えていく必要があると思います。

また、コロナ禍の体力低下の話が教育長から出ていましたが、その点で今ボルダリングを全幼稚園・小学校に設置していく計画があります。試験的に設置したところでは、体力測定で効果が出ているという話を聞きましたが、どのような状況ですか。

○教育長

初めに白金小学校で設置しました。実際に体験してみるとわかりますが、様々な体幹を使います。これまであまり使うことの無かった筋力を使うというのが一つと、それと一番大きいのは自分で次にどの体勢でどこに行くのかということを考え、友達同士でそれを相談して進んでいくということ、我々の思う以上に様々な効果が出ています。

○中村委員

この間、子どもサミットの委員会で、子どもたちの体力がコロナ禍でとても落ちているので体力をつけなければいけないということに問題意識を持って話していました。

港区は全国平均に及ばない、全国平均からすると投力がない、握力がない、だからそこを強くしなきゃいけない等、全国平均に及ばないところをどうすればいいかということにスポットライトを当てていました。

別に全国平均に達するようにしようというわけではなく、このコロナ禍で体力が落ち気味になっているところを、運動が得意な人も苦手な人も、みんなで体力を上げるためにスポーツができるような環境をどうやって作ればいいのか、そういうことを考えてみようかと話をして、別の発想を提案してみました。

その後の様子を見ていると、ちょうど白金小学校の児童がいて、ボルダリング施設の話をする、他の学校の子どもたちは羨ましがっていました。

子どもたちの様子を見ていると、やはり身近にそういう施設があれば、いつでも運動をしたいと、友達や運動が苦手な子どもたちも一緒に遊ぼうというそういう気持ちは十分あるように見受けられました。

あとは、体力がつく気軽に運動ができる環境を、行政側が作っていくというところが大事なところなのかなと思います。

○区長

その気持ちを生かしてあげるってことです。

○中村委員

そうですね。はい。

○区長

どうしても数字を比べてしまいがちということでしょうか。

○中村委員

優秀な選手をつくるとかそういう話ではないという話です。

○区長

自分が例えばどうなりたいかとか、自分のどこかの機能を伸ばしたいという、それを大事にして、自分の力でそれが実現することができるような、環境作りということなのでしょうね。それはもっともだと思います。まさに自分で考えることにつながるということになると思います。

○中村委員

あともう一点いいでしょうか。SDGsの点で、先程、区長からもお話があり、山内委員からもお話があったと思いますが、そもそもSDGsを、まさに水戸黄門の印籠にしないようにするためにはやはり積極的な取組を児童・生徒にさせてあげないといけないと思います。

これはおそらく港区の子どもたちだけではなく、全国の子どもたちもそうで一般的なことだと思いますが、危機感が足りません。人に何か言われたから行動することが多く、例えば、少し緑を増やそうかと言うと、わかりましたというような感じで、受け身ですよ。

自分の子どもたちにそういう話をすると、「なぜやらなければいけないのか分かる」と聞くと、「学校の先生に言われるから」と答える。これだとおそらく、なかなか積極的な運動として盛り上がっていかない。

壊すのは早いけれど、元に戻すのはとてつもなく時間がかかるということが一番大事だと思うので、そういうところをもう少し子どもたちに、学校現場でもそうですし、いろんなところでも、親や大人がきちんと伝えて認識させないといけないと思います。

この前も100年かかったものを、元に戻すには100年かかると言っていました。そのことを理解できれば、大事なことなのだと思うので、本当に積極的に子どもたちが行動を起こすのではないかと思っています。学校現場だけじゃなく、周りにいる大人たちが指摘していけば、更に活動が盛り上がっていくのではないかなと思ったりします。

○山内委員

今言われたこととつなげてお話しをすると、切実さをどう持たせるかということがとても重要になってくるわけです。それからもう一つは長期的な視点ということですよ。

今日の2番目の課題の地域とのつながりについてというのも、このコロナ禍だからこそ、その重要性を再認識したと思います。それは、短期的な対応と長期的に生かすことと両方考えていかないといけないと思います。短期的な対応は過度に危険を意識しない雰囲気を作っていけば、ある程度のところまでいけるかもしれない。

長期的な対応はまた別の問題だと思います。

そういう意味では、この地域とのつながりを本当に大事にしていこうということになったときに、結局港区という、この地域の一人ひとり、それぞれの世代が持ってきた空間に対する記憶の蓄積、それをどう大事にしていくか、それとそこに根差した行事とのつながりをどう生かすか、そういうことも含めて考えていけると非常に面白くなるわけです。

そういう意味では区長が、例えば郷土歴史館を牽引されたというのはとても重要なことで、あれはあの建物というものの保全というのでしょうか、景観の保護という一つの役割と、それからその地域の様々な歴史的なつながりを考える題材としても重要な場所で、だからこの思想をどう区のデザインに生かしていけるかということが、今とても重要なのではないかと思います。

それを申し上げるのはやはり今、港区の開発がとても進んでいて、ある意味で街が壊れてきている。良い開発の一方で景観を上手くバランスよく残すことをどうデザインしていくかが、これからの課題で、そこに空間の記憶の蓄積がなくなってしまうたら、誰もそこに世代を超えて愛着を持つということはなかなかできなくなります。

だから中村委員が言われたように、壊すのは早いけれども、でもそれが壊れてしまったら元に戻らない。そこはやはりこれから相当な意識をしていかなければいけないのではないかなと思います。それはまた、ある意味持続可能な社会という意味でも重要なテーマだと思います。

○区長

特に子どもたちは、生まれてからの年数が少ないわけですから、どうしても経験が浅いです。今あるものは、そのとおり受け止められますけれども、失われたらどうなるのだろうかというところに、なかなか想像力をめぐらすことは経験上から難しいでしょうと、今聞いていて思いました。となれば、やはりそこは当然、もしそうでなくなった場合に、こうした世界になってしまう、あるいはこういう影響があるということを分かりやすく、そこまでつなげて、子どもたちが理解できるようにすることで、翻ってじゃあ今ということにつながっていくのでしょうかね。

当たり前ですが、大人の感覚とはもちろん違うアプローチで、わかりやすく。ここは理解できるような工夫が必要だなと思います。またそれだけに、子どもでも分かるように大人が行動するというのもまた大事なことだと思います。

○中村委員

先日仕事で赤羽警察署に行きました。今まで何度も行っているのに、全然気づかなかったことがありました。天気が良かったので、ふっと上を見上げたら、警察署の壁の5.2メートルのところに川が氾濫したらここまで来ますよということが書いてあり、え、こんなところまで来るのかと驚きました。

そのような表示を街のあちらこちらに示すことで、子どもたちも真剣味が増したりします。それぐらいの工夫でもいいと思います。

○区長

そうですね。意表を突かれるという点もあるかもしれないですね。

記憶にはかなり強烈に残るでしょう。そういうのもやはり工夫ですよ。

○田谷教育長職務代理者

このままずっと自分たちが普通の生活をしたら、災害に襲われてしまうのだと思えば真剣にならざるを得ないと思うのですけれどね。

○区長

色々のご意見伺いまして、これからの取組の中で生かせる要素が非常にたくさんあったと思います。

街に対する見方というの、最近是对話集会のような形で、各地の特に高校生や大学生の子どもたちと話す機会が多いです。その子どもたちは区内の学校に通っていて、住んでるところは別の区という子どもたちも多いのですけれども、自分の学校の周りの地域で気に入っているところは何ですかという問いかけに対して、学校の周りには古くて良い建物が多いという意見を言ってくれた学生さんがいました。あ、なるほどなと思いました。確かにそう思って見てみると、古い昔の様式がそのまま残って今に活用されている建物が沢山ありますので、そうした地域にあるもの、皆が大事にしてきたもの、それがもう目に見える形で残っているものは、意識してもらおうと自分の街に対する見方がまた変わってくるのだろうなと思いましたね。

昔から続いていること、この先も続いていくという長い時間軸の中で身を置くことが出来るのではないかと、そのような気がしました。この地域の良さを生かし、また知ってもらおうということとをさらにまた、積極的に様々な機会で設けていく必要があるなと思いました。

新しくお住まいになる大人もそうだと思います。色々な事情があったとしてもそこに暮らすことを選択された方々ですから、興味がないわけではないと思います。

そのような中でまた、我が街となってみると、こんな街の景観があったり、こんな歴史があったり、こんな行事があったり、そのようなことをよく知ってもらおうことで、街への愛着というものをより深めてもらうことになると思いますし、今あるものを大事にするというのは、改めて大事な視点だなと思います。

これから先の新しい社会と言いますか、コロナ後を見据えた中での方向性のヒントが得られたように思います。

これからも、教育委員会のみなさんと連携しながら、よりよい地域づくり、また、子どもの育つ環境作りに努めて参りたいと思います。

せっかくの機会ですので、委員の方から何かございませんか。

○山内委員

区長の最後の一言、本当に心強いことで、やはりどう地域の景観を大事にしていくかというのは、ぜひ積極的にやっていただけたらいいと思います。

今回港区史でも触れていますけれども、残ってはいるけれどもこの20年で失われているところもあります。そういう意味では、いわゆるディベロッパーと称するところの開発に対して、別の価値の見方で区としても関わっていけるかということ、とても重要な点ではなかろうかと思いますが、それはもう、色々な場面で、どのように、営利主義の観点とは違う価値を提示できるかというようなことを、区が

率先、あるいは私たちが率先してできるといいなと思います。

○区長

ありがとうございました。

それでは時間が参りましたので、今回の総合教育会議は閉じさせていただきます。これからも機会を見て意見交換会をし、生かしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

5 その他

○区長

本日の会議は閉会とさせていただきます。事務局から何かありますか。

○総務課長

事務局からはございません。

6 閉 会

○区長

それでは、以上をもちまして令和4年度第1回港区総合教育会議を終了させていただきます。本日は、ありがとうございました。

(午前11時閉会)